

沖縄はやはり南国だった

2年生の沖縄修学旅行が実施された。本来は民泊で地元の方々と交流を図るが、コロナの影響で民泊はせず、ホテル泊となった。詳しい旅程は、本校ホームページに臨場感あふれる写真とコメントがあるので、そちらを是非見ていただきたい。それでも同じ日本でありながら、気温の違いには改めて驚かされた。11月にマリンスポーツができるとは、思ってもみなかった。参加する生徒は、全員ウエットスーツとマリンスーツに身を包み、まるで特撮ヒーローのようないでたちで、生憎の雨と風のダブルパンチを受けながらも、11月の海を満喫していた。海の中のほうが暖かく感じていたようで、バナナボートとシュノーケリングの合間の自由遊泳時にも、ウエットスーツの浮力で浮かびながら、海水を掛け合い、大声で笑い合っていた。やはり南国、おそろべし。17歳、おそろべし。

「感謝と笑顔」がキーワード

45回生はコロナの真っ最中ということもあり、2年時には実施できず、3年の7月に1泊の京都修学旅行、46回生は、万が一のことを考えて、陸続きでいつでも迎えに来ていただけるよう、四国周遊と広島だった。航空機を利用して沖縄に行くのは、3年ぶりである。47回生には、そんな先輩たちの思いも感じつつ、何をすべきか、何をすべきではないかを考えてほしいと伝えた。

このような状況のもと、修学旅行に、しかも沖縄に行けることへの感謝。費用を捻出し、集合場所への送迎をしてくださった保護者の皆様、実施するに当たり、入学当初から周到な準備を重ねてくれた学年の先生方、早朝にもかかわらず見送りに来てくださり、最終日に出迎えてくださった先生方、学年の先生方が学校にいらっしゃらない間、授業の穴埋めをしてくださった先生方、旅行の企画から各方面との交渉と担当してくださったJTBの方々、同行して思い出を記録してくださったオウチ写真場の高見さん、その他各種交通機関やホテル従業員の方々、ガマで解説してくださった方々、様々な体験活動のインストラクターの方々などなど、君たちの思い出づくりのために動いてくださった大人が何人もいらっしゃることに感謝の気持ちを持ってほしい。その感謝の気持ちを笑顔と言葉で伝えることができただろうか。

笑顔というキーワードは、前述の意味もあるが、それ以外にも、一部の人だけが楽しむのではなく、生徒全員が、また先生方も笑顔で過ごせるよう、そして、関わってくださる全ての方々からも笑顔で見守っていただけるようルールやマナーを守ってほしいという願いを込めていた。

「成長と課題」を発見

2年生の皆さんがルールを守ろうとしていたことは、よく伝わってきた。特に時間を守って後の進行に支障が出ないようにしようという思いは、非常に強かったように思う。何人かの室長が会議に遅れてきたことがあったが、最後の那覇空港での集合も完璧で、ルールを守ることができていた。これが大きな成長だ。一方でそのルールを守ろうとした結果、ルールだけ守って、マナーを置きざりにしてきた人があった。最終日のホテルを出る時間を守ろうという意識だけが強くて、「来た時よりも美しく」というマナーまで行き届かなかったのだろう。そこは、我々も大きな反省点だし、生徒の皆さんの大きな課題だと言える。その美しくない部屋を見たホテルの従業員の方々の

「そこに笑顔はあるのか？」

誰でも失敗はするし、気付かないこともある。「そうだった…。」と気付いてくればそれでいい。

このようなマナーに類することは、2年生はあと1年半で身につけたい「凡事(ありきたりなこと、何でもなさそうなあたりまえのこと)」だ。またそれは、3年生にも1年生にも言えることで、今回の修学旅行で発見した大きな課題だ。一方で、右にあるようなメモを客室に残してホテルを後にした生徒もいた。ちゃんと言葉で感謝を伝える。面と向かって言うのは照れることもあるが、こういう方法もある。笑顔と言葉で感謝の気持ちを伝えることは、人間として大切なことだと気付いてくればそれでいい。

